

会 議 録

| | | | |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 会議名 (付属機関等名) | 令和2年度第1回(第34回) 川西市参画と協働のまちづくり推進会議 | | |
| 事務局(担当課) | 総合政策部 参画協働課 | | |
| 開催日時 | 令和2年6月26日(火) 午後7時00分から午後8時30分 | | |
| 開催場所 | 川西市役所 4階 庁議室 (オンライン会議) | | |
| 出席者 | 委員 | 岩崎恭典、田中晃代、藤本真里、加門文男、釜本孝彦、乾美由紀、延命寺陽子、金剛丸朋子、相良雅江、田中真、田中真優、中村佳子、名木田絢子、堀田大樹、三善知子、山澤剛、吉尾豊 | |
| | その他 | | |
| | 事務局 | 総合政策部長、総合政策部副部長兼参画協働課長、同課長補佐、同課主任 | |
| 傍聴の可否 | 可 | 傍聴者数 | 2人 |
| 傍聴不可・一部不可の場合は、その理由 | | | |
| 会議次第 | <p>1 開 会</p> <p>2 議 事</p> <p>(1) 令和元年度 各部会からの年度末報告について</p> <p style="padding-left: 40px;">A部会(トラップを仕掛ける会)</p> <p style="padding-left: 40px;">B部会(ポップコーン部会)</p> <p>(2) 令和2年度の進め方について</p> <p>3 閉 会</p> | | |

18 : 45 ~

1 開 会

事務局により進行。

事務局紹介。

オンライン会議について事務局からの説明後、岩崎会長により進行。

2 議 事

(1) 令和元年度 各部会からの年度末報告について

○ 事務局

- ・ 配布資料について説明・確認

A部会（トラップを仕掛ける会）

A部会委員が資料に基づき報告

- ・ まず、「やる気があり積極的だが、取り組めていない人」の現状と課題を整理した。
- ・ 目を引くように、イラストを用いてカードを作成する。
- ・ 参加を呼び掛ける団体が自身で作成することで、独自のブラッシュアップや長く活用できる。
- ・ 表面に参加を迷っている方の具体的な人物像やその気持ちを明記することで、より訴えかけるものとなる。裏面には、参加を呼び掛ける団体からのメッセージ（PRや活動のアドバイス）を明記することで、迷っている方が具体的な活動のイメージがわきやすくなる。
- ・ 具体的なターゲットに配布する、手に取って持って帰れるように設置することが効果的と考える。
- ・ 実際にワークショップを通して気付いたことは、2点。テキストの例示は配布しない方が良く、既成概念に縛られてしまい新しい発想を妨げてしまう。また、表面と裏面は別の方が作成する方が面白いものができる。

- ・ 今後は、新型コロナの影響があるものの、実施に地域（多田東福祉委員会）に出向いて実地検証を行いたい。
- ・ 地域では、このカードを通して活動のきっかけや活動を始めたころの気持ちを思い出すいいチャンスになるとの声があり、参加を迷っている方に対してはとても説得力のあるカードと考えている。
- ・ 参加を募る団体自身が参加されない方の気持ちを考えて、その不安や引っ掛かりに対するアドバイスをイラストや具体的なテキストで訴えかけるカードである。

（意見交換）

- ・ 多くの団体がカードへの記載を申し出た際に選定等はあるのか。
いくつかのカードサンプルや作り方を提案し、カードは参加を募る団体が各々の団体の状況に併せて自身で作成していただく。
- ・ 地域という小さな単位でのカードと全市的な大きな単位でのカードとでは、住みわけや工夫は考えられたか。
規模の大小を問わず、初心に立ち返る効果、一つのきっかけづくりとしての効果を期待している。

B部会（トラップを仕掛ける会）

B部会委員が資料に基づき報告

- ・ 昨年度の議論の結果、活動のヒント集や各団体への行動指針をまとめてきたが、「やる気や興味・関心が薄い方を巻き込んでいく」ためのきっかけとしては、「川西源氏かるた（仮）」を提案したい。
- ・ 「川西源氏かるた（仮）」で遊び感覚でまちづくりに興味を持ってもらい、活動のヒント集で課題解決の糸口をつかんでもらい、行動指針でより精緻な提案をまとめている。
「川西源氏かるた（仮）」について

- ・ 尼崎市の「AMAGASAKI TO THE FUTURE PART2」を参考にした。
- ・ 様々な課題を川西市のリソース(資源)を組み合わせることで解決策をみんなで考えるゲームである。
- ・ 解決に煮詰まった地域課題のブレイクスルーに楽しくみんなで取り組めるツールになるよう期待している。
- ・ 以下の3種類のカードを使用する。
 - ・ 市民の声にフォーカスした「課題」である。例えば、団体側は清掃ボランティアが減ってくるとどうやって参加者を増やそうか考えるが、市民の声は「いつも行く公園が汚くてどうにかしたい」であり、ここが活動の本来のスタートである。
 - ・ 市内の資源である「リソース」である。デザインを工夫し親しみやすいものにする。リソースの再発見、新たなコラボレーション(組み合わせ)、いろんなリソースを巻き込んでいく普及の中で参画と協働をめざしていきたい。
 - ・ 様々な制限を設ける「縛りカード」である。例えば、人の話を全て肯定する場合と否定する場合での結果の違いなどを体験してもらいたい。
 - ・ ワークショップを通して、カードも増やしていきたい。私企業や活動団体を巻き込むなど。
 - ・ 市役所の研修会、各団体の交流会、教育現場など様々な場面で使用できる。
 - ・ 今後は、ルールの確定、ワークショップの設定、進め方の動画配信、予算確保など色々な課題がある。

コミュニティ・ディベロップメント(案)

- ・ コミュニティを活性化し、課題解決するためのヒント108を次の7つの分野に整理した。
- ・ 「コラボレーション(協働する)」、「プランニング(企画する)」、「シティプロモーション(魅力発信)」、「ファシリテーション(調整する)」、「会議の場のデザイン(場づくり)」、「組織のマネジメント(組織運営)」、「コミュニティ・ディベ

ロップメント（コミュニティ活動）」である。

川西市の地域活動・市民活動を活発にする行動指針（案）について

- ・ 両部会で議論された「多世代の方に活動に関わっていただく」アイデアをまとめて作成した。
- ・ 問題点としては、意見を出された方のチェックが済んでいない点である。委員間でのチェックが必要である。
- ・ 課題としては、読む方が読みやすい形にしていく、試してみようという気持ちになるような工夫が必要な点である。今後この点を改善し早い段階で完成させたい。
- ・ 行動指針を地域での活動に活かしていくには、コミュニティ協議会連合会との連携が大切である。連合会への説明やその意見も取り入れながら良いものに完成させたい。

（意見交換）

- ・ 最近「川西ふるさとカルタ」ができたが、提案の「川西源氏かるた（仮）」との差別化や他のボードゲームを取り入れてはどうか
市民の声である「課題」と「リソース」を組み合わせることで解決を図るという点がふれなければ、カルタにこだわる必要はないと考える。今後の部会でしっかり議論したい。
- ・ 絵のテイストやゲーム性に違いはある。上手く融合できればより良いものになるのではないかと思う。
- ・ リソースのカードを組み合わせることで、大喜利大会などを行えば、川西愛を深めるツールにも生かせるのではないか。

田中副会長

- ・ どちらの部会にも、根底には共通する部分がある。それは、委員が川西愛を持ち、「ちょっとやってみる」という完璧を求めない感覚取り組んでいることだ。これからのまちづくりには必要な感覚で、とてもいい議論ができていると思う。

藤本副会長

- ・ A部会はワークショップを、B部会はあるたを実践するということまでやってみてみえてくるものがあると思う。今後の両部会の議論に期待したい。

岩崎会長

- ・ A部会・B部会が議論された一方で、行政の役割とは何なのか。これだけの市民の提案に市としてどう答えてゆくのか、どのように支援していくのかが重要である。
- ・ 教育の現場にせよ、地域包括ケアシステムにせよ、コミュニティに寄せられる期待が大きい一方で、行政が地域に丸投げではいけない。
- ・ 例えば、B部会の行動指針においても、行政の役割という部分をしっかりと書いておく必要がある。

(2) 令和2年度の進め方について

事務局が資料に基づき説明

- ・ テーマは昨年度と同様である。昨年度議論された内容を深堀し、実証分析を重ねていただきたい。
- ・ 基本的には、部会単位での議論を行い、定期的に全体会で報告・意見交換を経て、令和2年度末に最終の提案をいただく。
- ・ 川西市では、本年度より第2次総合戦略がスタートしており、その中で、「市民と活動団体の情報を集約し、手伝いたい人と活動内容をマッチングする」(仮称)地域人材マッチング制度」を検討し、令和4年度までに事業を開始します。」と定めている。本年度、参画協働課では、(仮称)地域人材マッチング制度の試験的導入をめざしており、皆さんの意見も参考に検討していきたいと考えている。

岩崎会長

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン会議となったが、やはりリアルな議論を通して、リアルな人のつながりの方法を模索していきたい。
- ・ 人材マッチング制度を、地方創生総合戦略の一つの事業として盛り込まれたということは予算化し、地方創生総合交付金の交付を受けて取り組んでいくということか。

事務局

- ・ 交付金の交付を受けるかどうかは別として、総合戦略の策定過程で、「市民会議」において提案された「人材マッチング制度」を実現していきたいと考えている。

3 閉 会